

山北町第4次定住総合対策事業大綱 <概要版>

令和7(2025)年3月

1 目的と位置づけ

■目的

第4次大綱は、山北町第6次総合計画で定められた人口目標の達成や重点プロジェクトを達成するため、第3次大綱で取り組んできた若者・子育て世代が住みやすい環境づくりの維持・強化を図りつつ、関係人口を含めた来訪者が山北を楽しみ活躍できる場を増やします。これらの取り組みを本町が推進・支援することで、山北町第6次総合計画に掲げる将来像「みんなでつくる ころ豊かに暮らせるまち やまきた」の実現へつなげるため移住者を増やすことを目的とします。

■期間

令和7(2025)年度から令和11(2029)年度までの5年間

■位置づけ

山北町第6次総合計画で定められた人口目標の達成や、重点プロジェクトである「関係人口・定住人口拡大プロジェクト(やまきたチャレンジ)」を推進するため、定住促進に関する具体的な計画や取組内容等を示すものです。

2 現状と課題

■現状

- ・本町の人口は、9,435人(令和6年)で、今後も人口は減少を続けるものと推定されています。
- ・死亡数が出生数を上回る自然減少、転出者が転入者を上回る社会減少の状況が続いているが、令和元年以降、転入者と転出者の減少差が30人台~50人台で推移しているなど、一定の定住促進効果が現れました。
- ・合計特殊出生率は、0.89(令和3年)と、他の足柄上郡4町及び神奈川県より低くなっています。
- ・労働力人口5,103人、労働力率58.5%(令和2年)で、平成22年以降減少傾向にあります。
- ・延観光客数は、1,185千人(令和4年)と新型コロナウイルスまん延の影響以前には回復していません。

■これまでの施策の検証

- ・全ての施策体系の事業において想定通りに進行し、全体的にバランスが取れた効果が発現することができました。特に「移住・定住環境形成に向けた施策」については際立った効果の発現が測定されました。
- ・しかし、依然として転入と転出では転出の方が多い状況が続いているため、一層の施策の推進が必要です。

■課題

課題1) 移住につながる山北を訪れる人が減少傾向にある

- ・移住候補者となる山北町への来訪者は近年減少傾向にあります。
- ・自然が好きで自然の中で子育てしたい方等が移住・定住に結び付くまでの施策の展開が求められます。
- ・移住した後のライフスタイルとして楽しむことが想起できる場づくりが求められます。

課題2) 若者・子育て世代が住みたくなる環境を十分に提供できていない

- ・若者・子育て世代が住みたいと思う環境を整えることがこれまで以上に重要です。
- ・本町らしい暮らし方を体感できる住環境や子育て環境の整備、移住・定住を促す大きな要因である働く環境の創出、日常生活を送るうえでの交通利便性や生活利便性の向上等が求められています。
- ・山北暮らしの魅力の創出や、子どもの教育環境や居住環境への不安解消等が求められています。

課題3) 魅力の発信や施策の周知が十分ではない

- ・全国的な山北町の認知度は徐々に高まっていますが、十分ではありません。
- ・都心居住者をはじめ周辺居住者も含めた移住を受け止める住まいが十分に供給はできていません。
- ・本町での暮らしぶりや余暇の過ごし方等の魅力、施策等を常日頃から発信することが求められています。

3 目標

■目標

コミュニティと地域の活性化につながる山北町で活躍する移住者を増やす

~これからの本町で活躍する現役世代を中心に移住者増加を目指し地域活性化を図ります~

●目標値

移住者数(転入者数) 令和11(2029)年度 260人

4 施策方針

■行動指針

- ・「山北をよくしたい」というシビックプライド※を持って取り組みを実行する。
 - ・町外の声に耳を傾けニーズを把握し、町内に目を向け山北の良さを再認識し、取り組みを実行する。
- ※「シビックプライド」とはその地域に関わる全ての人の「地域への誇りと愛着」を表す言葉。

■ターゲット

町を良くしようと積極的に活動する現役世代を中心に捉えつつ、今後の山北に長くかかわる可能性が高い若者・子育て世代

■方針

方針1 山北の過ごし方を伝えます

山北を楽しむ、山北が住みやすいといった山北での過ごし方をイメージさせる情報を継続的に発信します。不特定多数に加え、特定ターゲットへ向けた直接的な情報発信等の多様な手法とともに、町民や事業者、来訪者、関係人口等の山北に関わる多様な方々による情報発信を促します。

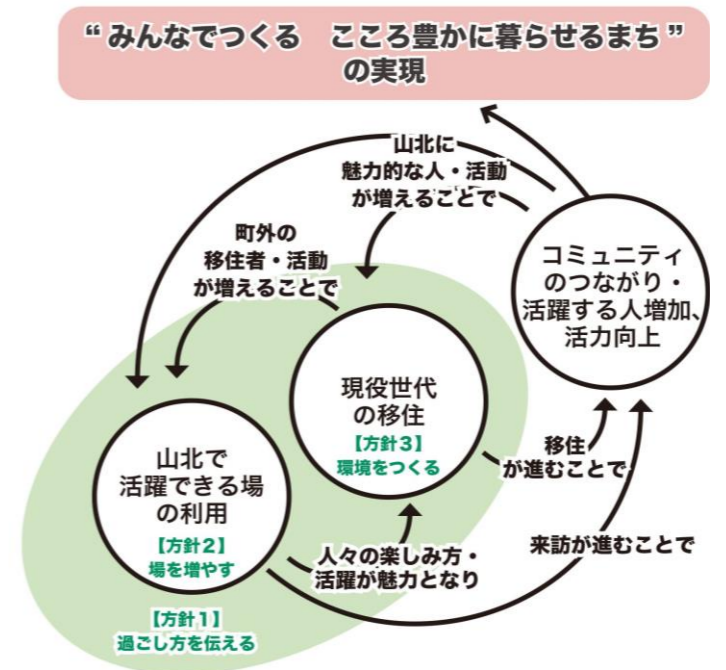
方針2 来訪者や関係人口等も山北を楽しみ活躍できる場を増やします

山北町を訪れる、住む上での基本である「満足感」を感じる場を増やすため、本町を訪れるきっかけづくり、来訪者や関係人口だけではなく町民が楽しいと感じる場や活躍できる場づくりを進めます。きっかけや場づくりは、町民や事業者、関係人口となる方々などと連携、支援することで増やしていきます。

方針3 若者・子育て世代が住みやすい環境をつくります

若者・子育て世代を中心とする現役世代が「住んでみたい」、「住み続けたい」と思う環境の創出のため、町が新たに進める「出産・子育て応援プロジェクトチーム」※からの提案施策を実現するなど、本町の魅力を高める住環境や子育て環境の整備、働く環境の創出とともに、本町の実態を踏まえた交通利便性や生活利便性の向上等を図ります。

※「出産・子育て応援プロジェクトチーム」とは、出生数増加と子育てがしやすい環境の構築及び子育て世代の転入の増加を目的に、令和6年8月に町の子育て世代の職員で構成し発足した組織。



5 施策体系

重点事業 施策1 山北の過ごし方を伝える情報施策

No	施策・事業名	種別	概要
1-1	魅力あふれるシティプロモーション	拡充	新聞・雑誌等のアナログ媒体やテレビ・ラジオ・ホームページ・SNS等のデジタル媒体の他、移住セミナー・フェア等出張イベント等を活用し、移住・定住に関する情報やイベント・アウトドア情報等、シティプロモーションに特化した情報を町外向けにPRし、来町を促す。

重点事業 施策2 来訪者や関係人口等も山北を楽しみ活躍できる場の増加施策

No	施策・事業名	種別	概要
2-1	魅力あふれるイベント ◆森林セラピーイベント 森林セラピー体験ツアー ◆農業イベント 産業まつり ◆観光イベント やまきた桜まつり／鉄道の町山北D52フェスティバル／西丹沢もみじ祭り等 ◆生涯学習・スポーツイベント やまきたスポーツの秋祭り／丹沢湖マラソン／生涯学習センターフェスティバル等	継続	不特定多数の方が参加するイベント等の魅力を高め、より多くの方が訪れる機会を創出する。また、来訪者によるSNS等での情報の発信・拡散を促進する。
2-2	アウトドアアクティビティでやまきた満喫	継続	豊かな自然資源を活用して、カヌーやSUP、ハイキングや登山等のアウトドアアクティビティを行い、来訪者を増やす。
2-3	自治体間交流でやまきたファンづくり	継続	品川区、川崎市、村上市（旧山北町）等との交流事業を実施する。
2-4	新東名スマートICを活用したまちづくり	継続	新東名高速道路（仮称）山北スマートICの開通を見据えた地域振興について検討する。
2-5	二地域居住希望者を支援	継続	二地域居住希望者等へ支援を行う。
2-6	文化財・伝統芸能等の継承	継続	文化財や伝統芸能等の担い手不足や継承等に対して、町外の方が関わる仕組みづくりを検討する。
2-7	農林業活動の参加促進	継続	森林ボランティアや農林業体験、市民農園やみかん果樹オーナー制度等、町外の方が農林業を通して関わる仕組みづくりを検討する。
2-8	ふるさと納税や企業版ふるさと納税、クラウドファンディング活用で地域活動に貢献	拡充	ふるさと納税制度等を通して関係人口の創出につながる町の施策のPRを行う。

重点事業以外に町が行っている事業

(1) 山北の過ごし方を伝える情報施策

- ・やまきたファンクラブ等での情報発信の充実
- ・民間企業等と連携した多様な媒体による情報発信の充実

(2) 来訪者や関係人口等も山北を楽しみ活躍できる場の増加施策

- ・山北高校との連携の推進
- ・鹿島山北高校との連携の推進
- ・地域活動等への参加促進
- ・お試し住宅活用事業

(3) 若者・子育て世代が住みやすい環境の創出施策

- ・企業誘致や商業施設の立地による産業の活性化及び雇用促進

(4) その他

- ・民間企業や大学、自治体等との連携による調査・研究・施策の展開



保育園の夏祭り



小学校の森林体験

重点事業 施策3 若者・子育て世代が住みやすい環境の創出施策

No	施策・事業名	種別	概要
3-1	地域公共交通計画に基づいた持続可能な地域公共交通の形成	拡充	山間部（清水・三保・共和地区）の公共交通空白地域や町外への通勤・通学者の利便性向上のため新たな交通システムの構築を行い、持続可能な地域公共交通網を形成する。
3-2	0歳から15歳までの一貫教育・保育の推進 異校種間の交流活動の実施／定期的な研究会の開催／各分野（研究・特別支援・児童生徒指導・食育等）における会議の開催	新規	基本方針に基づき、切れ目のない、より質の高い教育・保育を実施できるよう、園や小・中学校が連携し子どもの教育・保育環境の充実を図る。
3-3	就学前の子どもの教育・保育をサポート	継続	子育て中の保護者の不安を解消するための相談体制を整え、幼稚園・保育園・認定こども園での教育・保育を充実させる。
3-4	認定こども園・保育園における保護者のストレスフリー 保育料の減免制度事業／使用済みおむつの処分／給食費の無償	拡充	国の無償化の他に本町独自の施策により保育料を減免や給食費を無料の他、使用済みおむつの処分を園が負担するなど保護者への負担を軽減する。
3-5	児童・生徒の就学をサポート	拡充★	町内に居住し、かつ町立小・中学校に在学する経済的理由により就学が困難であると認められる児童・生徒の保護者に学用品費、給食費、修学旅行費、中学校制服購入費等の補助を行う。
3-6	やまきた児童クラブの運営 （放課後児童クラブ）	拡充★	留守家庭児童の健全な育成を図るため、本町が事業主体となり、川村小学校の余裕教室を活用して、児童の保育を行う。
3-7	母子保健事業の充実でおやこをサポート 妊産婦健康診査費用補助事業／妊婦タクシー費用助成事業／新生児聴覚検査事業／1歳児健康診査	拡充	妊産婦や乳幼児における健康診査等の母子保健事業の費用補助を行うことにより母の負担を軽減し、妊娠・出産・育児が安心して行えるよう図る。
3-8	こども家庭センターの運営	新規	保健師または助産師が妊娠届出時から、妊娠・出産・育児に関する個別の相談に応じ、個別の支援プランを策定し、保健・医療・福祉・教育関係機関と連携して切れ目のない支援を行う。
3-9	出産祝い金の支給	拡充★	子どもを出産した世帯に対し、新生児の健やかな成長を願い、出産祝い金を支給する。
3-10	子育て支援センターの運営	拡充★	乳幼児を育てる子育て世代が、健やかに楽しくゆとりを持って育児ができるよう支援するため、子育て支援センターに子育てアドバイザーを配置し、育児の不安解消や育児情報の提供、子育てサークルの育成・支援を行う。
3-11	育児用品購入券の支給	拡充★	乳幼児を養育する世帯に対し、紙おむつや粉ミルク等の育児用品の購入券を支給する。
3-12	小児医療費の助成	拡充	0歳から18歳（高校終了）までの子どもをもつ子育て世帯に対し、所得制限なしで医療費の助成を行う。
3-13	やまきた木育のすすめ	新規	町産の木製品との触れ合いを通じ、町の木や森に親しむ中で郷土愛を育む環境を創出する。
3-14	東山北1000まちづくり基本計画に基づいた魅力ある環境の整備推進 （水上・尾先・丸山地区）	継続	若者・子育て世代をはじめとする多様な世代の方々への魅力的な住宅の供給を図るとともに民間開発を実施しやすい環境を創出する。
3-15	のびのび過ごす公園環境整備	新規★	山北町都市公園条例に基づき、若者・子育て世代をはじめとする多様な世代の方々快適に利用できるような生活環境を創出する。
3-16	山北駅周辺の魅力づくり	継続	空き店舗の活用や関係者との意見交換会等を実施することで山北駅周辺の魅力を高め、商業の活性化及び住民の生活利便性の向上を図る。
3-17	やまきた定住相談センターの運営	継続	民間団体や地域団体、金融機関、公益団体等と連携して移住・定住希望者に対応する。
3-18	住まいづくり応援事業の充実で新生活をサポート 住宅取得助成金／勤労者等住宅資金利子補助金／結婚新生活支援事業／空き家活用助成金	拡充★	本町への転入及び若者・中堅世帯の定住並びに町内の空き家等の利用を促進し、人口の増加と地域の活性化を図る。
3-19	やまきた定住協力隊の活動推進 空き家見学ツアーの開催／空き家相談会の開催／移住者交流会の開催	拡充	地域住民及び移住者、宅建業者等から構成されるやまきた定住協力隊と連携し、地域の空き家及び空き地の掘り起こしや所有者との相談及び調整、移住・定住希望者への現地案内をするほか、定住促進イベント等を実施する。

★～「出産・子育て応援プロジェクトチーム」の提案が反映されている事業